

やがいアート展 2026 イベント情報

やがいアート展では、作品をみるだけではなく、アーティストと一緒に作品をつくったり、ワークショップに参加していろいろな表現を体験することができます。

各イベント
詳細は右記
QRコードへ
▶▶▶▶▶



淀川テクニック

「ゴミジナル工作®」11月7日(土) 10:00～12:00

ゴミや漂流物を使って、あなただけの作品をアーティストと一緒につくってみませんか？
ゴミから奇想天外なオブジェが生まれ、そこに新たな価値が宿るかもしれません。
ワークショップで制作した作品は、このやがいアート展の1作品として、
芝生広場に展示されます。※作品は、会期終了後にお持ち帰りいただけます。

対 象 | アーティストと一緒に作品を制作し、展示してみたいひと
※小学校低学年、未就学児は保護者と一緒にご参加ください。

定 員 | 20人 ※予約優先

会 場 | ホール棟1階 北側出口スペース 申込期間 9/15(火)～10/23(金)



公開インストール 「いっしょに、釜ヶ崎芸術大学をつくってみよう！」



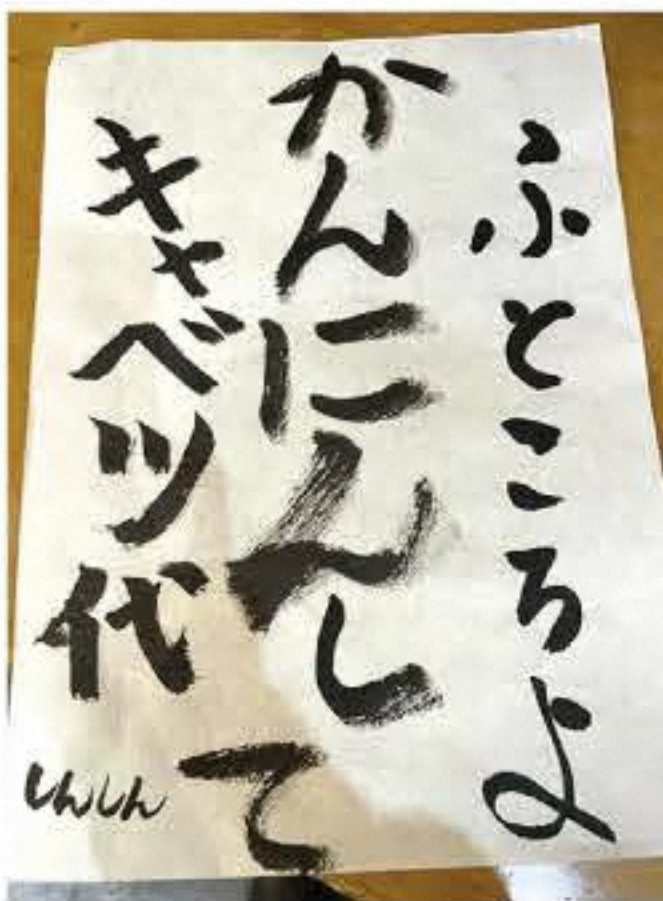
11月12日(木) 13:00～17:00
／13日(金) 10:00～17:00／14日(土) 10:00～17:00

やがいアート展の展示設営に参加して、一緒に釜ヶ崎芸術大学をつくってみませんか？
釜ヶ崎でアーティストたちが制作してきたいろんなものを、YBファブに持ってきます。
貼ったり、くっつけたり、追加創作したり。みんなでわいわいやってみましょう！
眺めて応援や、差し入れだけでも大歓迎です。

対 象 | アーティストと作品搬入や展示設営を体験してみたいひと
会 場 | 旧グンゼ棟1階

※時間内での途中参加、途中退室も可能。動きやすい格好でお越しください。

釜ヶ崎芸術大学



出張講座 in 養父①

「合作俳句」

11月15日(日) 10:00～11:00

俳句の「五・七・五」を3人でつくります。3人でつくる俳句は奇想天外！俳句をよみあうことで、大爆笑から人生の機微まで。とにかく楽しみましょう。

対 象 | 小学生から大人まで、一人から参加可

講 師 | 上田假奈代(詩人)

会 場 | 旧グンゼ棟1階



出張講座 in 養父②

「詩 こころのたねとして」

11月15日(日) 11:10～12:30

2人一組になり、お互いのことを聴き合って詩をつくります。即興で生まれるあたらしい出会いに、心がふんわりじんわりしますよ。

対 象 | 小学生から大人まで、一人から参加可

定 員 | 16人 ※予約優先

講 師 | 上田假奈代(詩人)

会 場 | 旧グンゼ棟1階

申込期間 9/15(火)～11/13(金)



11月7日(土)、8日(日)は第62回八鹿文化祭、11月15日(日)はYABUフードEXPO、
11月28日(土)、29日(日)はYBファブ映画まつり2026が同時開催！



やぶ市民交流広場



「人と文化と郷土をつなぎ、未来を創る学びと交流の拠点」をコンセプトとした、ホール、公民館、図書館、公園としての機能を備えた複合施設です。

住所 〒667-0021 兵庫県養父市八鹿町八鹿538番地1

アクセス

▶ 電車ご利用の方

JR山陰本線「八鹿駅」下車西向きに徒歩10分

▶ 路線バスご利用の方

「八鹿駅」もしくは最寄りのバス乗り場より乗車

「やぶ市民交流広場」／「販訪町」バス停下車すぐ

▶ 自動車ご利用の方

北近畿豊岡自動車道「八鹿水ノ山」IC出口より10分



お問い合わせ

まちづくり文化交流課 ☎ 079-662-0071 (8:30～17:15 / 平日のみ)

やぶ市民交流広場

☎ 079-662-0070 (9:00～17:00 / 月曜休館) ※月曜が祝日の場合は、その翌日が休館



YB fab
やがい
アート展
OPEN-AIR ART EXHIBITION AT YB fab

アーティスト

釜ヶ崎芸術大学

Kamagasaki University of the Arts

淀川テクニック

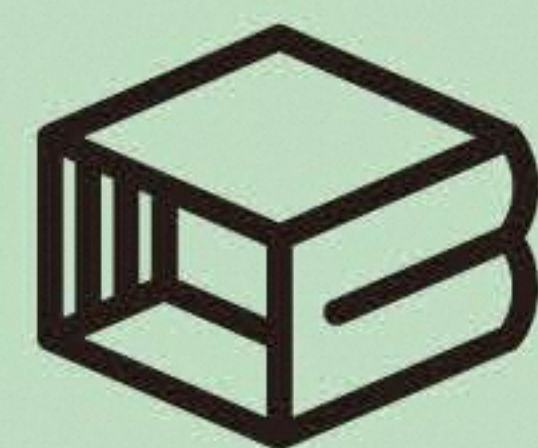
Yodogawa technique

周藤豊治

Toyoharu SUTO

杉本ひとみ

Hitomi SUGIMOTO



YB
fab

やぶ市民交流広場

2026

11.7(土)～29(日)

やぶ市民交流広場(YB fab)芝生広場 ほか

兵庫県養父市八鹿町八鹿538-1

主催 | 養父市、養父市教育委員会

入場無料





会場
MAP

旧グンゼ棟 1 ※11/12(※)
以降の公開

2

3

ホール棟 4

図書館棟



イベント詳細はこちら

Knock on the Door

今年のテーマは「Knock on the Door (ノックオンザドア)」です。

過去4回の展覧会をとおして、私たちはアーティストが生み出す作品たちの色、かたち、素材などさまざまな表現のちがいに出会い、またそれぞれの作品を観て、触って、ときにはそこに交わることで、身近な人々や遠い地の誰かとのつながりについて思いを巡らせました。

今年5年目を迎えるこの「やがいアート展 2026」では、4組のアーティストの表現方法や場づくりをヒントに、私たちが自らの手で私たちのまちを創造する、そんな実践へと挑戦しています。

今回はじめてこの展覧会を知った人でも、ゲイジツってなんだか難しそうと感じている人でも、どなたでもウェルカム！アーティストと一緒に作品をつくったり、展示会場を組み立てたり、少しでもいつもとはちがう扉を開けてみませんか？

鑑賞のご案内

- ・展示作品はすべて写真および動画での撮影が可能です。
- ・作品鑑賞の際、作品に登ったり、故意に叩くなど、破損や危険性を伴う行為はご遠慮ください。



釜ヶ崎芸術大学 Kamagasaki University of the Arts

プロフィール | 2012年より大阪市西成区釜ヶ崎にて開講。NPO法人こえとことばとこころの部屋(ココルーム)が運営する。釜ヶ崎のまちを大学にみたく、地域のさまざまな施設を会場に「学び合いたい人がいれば、そこが大学」として、年間約80~100講座を開催している。主な展覧会歴に、ヨコハマトリエンナーレ2014、さいたま国際芸術祭(2019)、大阪関西国際芸術祭(2025)など。



撮影のりやまもと

作品No.

1

ほかの惑星の事情は知らないけど。いっしょになら、なにかできる気がする

釜ヶ崎は大阪市西成区の一部をさしますが、地図にあるわけではありません。「釜ヶ崎」とは、人生の中でよりどころのない、ひとりぼっちのような状況なのかもしれません。しかしその片隅で存在を認め合い表現しあう場があると、おもしろいことが起こるのです。母体であるココルームは、喫茶店のふりから始まりました。その後、芸術大学とゲストハウスのふりも加わり、今や「であいと表現の場」となりました。苦労のしみこんだ無名の人々の表現は人生の機微を伝え、今を生きることを深くしてくれます。孤独を味方にして人たちの弱さが、力となる瞬間に立ちあい続け、どれほど励まされたことでしょうか。

今回、養父のみなさんとYBファブの一角に釜ヶ崎芸術大学をつくらうと考えています。属性や言語、地域をこえた交流と、人々が経験を共にする場へ、ぜひいらしてください。

作品No.

2

ゴミジナル工作®

淀川テクニクがこれまで様々な場所で集めたゴミを使って、参加者の皆さんに工作を楽しんでもらいます。嫌われ者のゴミたちも、よく見てみるとハッとするような色や形をしています。それらをグルーガンで組み合わせ、世界に一つだけの作品をつくります。何をつくるかに決まりはありません。思いついたままの発想で形にしてください。完成した作品には、「どんなことを考えてこの作品を作ったのか」というコメントを添え、会期中展示します。作品づくりを楽しみながら、身の回りにある「いらないもの」の見方が少し変わるきっかけになればうれしいです。

プロフィール | 柴田英昭のアーティスト名。2003年に大阪・淀川の河川敷を拠点とし活動開始。ゴミや漂流物などを使い、様々な造形物を制作する。赴いた土地ならではのゴミや人々との交流を楽しみながら行う滞在制作を得意とし、日本全国また海外でも制作多数。岡山県・宇野港に常設展示された「宇野のチヌ」は特によく知られている。

淀川
テクニク
Yodogawa
technique



作品No.

4

今が見ごろ



私たちは日常の中で、つい「お得」「安い」という値引きシールを見ると嬉しくなり、思わず手を伸ばしたりします。私にはその感覚が、蝶や蜂が花の蜜に引き寄せられる姿とどこか重なって見えました。時を重ねてこそ生まれる美しさもあるはずなのに、その価値観を知らず知らずのうちに人の見方にも重ねていないでしょうか？ここに咲くのは、見過ごされてきた価値を主張するお花たちです。ホール棟では、蝶に扮した女性何やら花束に見惚れる作品、芝生広場では、その女性が見つめていた作品の中へ、鑑賞者自身が入り込むことができます。お花畑を歩く時間が、自分の中にある「蜜」に目を向けるきっかけとなり、年齢や立場にかかわらず、誰もが自分らしい花として自分自身を肯定できる時間になれば嬉しいです。

プロフィール | 大阪府生まれ。大阪芸術大学大学院芸術研究科修了。韓国・水原大学 College of Art & Design 助教授を経て、現在は国内拠点で活動。陶を素材に、果実や人物、花など身近なモチーフを用い、「自由」「肯定」「幸福感」をテーマに制作。ユーモアのある表現を通して、見慣れた価値観を少し違う角度から見つめ直し、誰もが自身を肯定しなくなるような作品を目指している。

杉本ひとみ
Hitomi SUGIMOTO



作品No.

3

Tow Watchers

鉄を素材に作品をつくり始めて、30年が経ちました。厚さ1.6ミリの鉄板を型に合わせて溶断し、できたパーツを曲げたり、たたいたりしながら形を整えます。それぞれの部材を組み合わせて溶接し、最後に溶接ビードをグラインダーで丁寧に削ることで、作品が少しずつ姿を現していきます。鉄は一般に「冷たい」「かたい」という印象を持たれがちな素材です。しかし私は、その鉄から「温かさ」や「やわらかさ」が感じられる作品を生み出したいと考えています。硬質な素材の中に、人の気配やぬくもりを宿らせることを大切にしながら、見る人の心に自然に届く、流れるような美しい曲線を追求し続けています。鉄と向き合う日々は、今も発見の連続です。

プロフィール | 島根県生まれ。島根県内で美術教諭を務めながら二紀展に出品。2024年二紀会委員になる。今年3月に早期退職をし、鉄の作品制作を軸に、地域の自然との関わり、ワークショップ、旅の記録を通して経験から得られた学びを発信するクリエイティブスタジオ「Fe56+」を立ち上げる。人との関わり、自然との関係の中で豊かな人生を模索している。

周藤豊治
Toyoharu SUTO

